



# 六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.51  
水生生物の生態調査/  
三橋 弘宗  
2007年6月発行

## 第51回テーマ： 水生生物の生態調査



モリアオガエル

### 講演内容

- ①生態調査とは
- ②六甲山上の沢、湿地、  
ため池の生態系
- ③六甲山における生態系保全や  
自然再生にむけた着眼点

実施日：平成19年6月16日（土）

午後1時～3時45分

場所：六甲山自然保護センター  
レクチャールーム



講師：<sup>みつはし</sup>三橋 <sup>ひろむね</sup>弘宗さん  
プロフィール

1970年京都市生まれ。京都大学大学院理学研究科博士前期課程修了、理学修士。兵庫県立人と自然の博物館自然・環境マネジメント研究部流域生態研究グループ研究員。兵庫県立大学自然環境科学研究所講師。

### 梅雨の晴れ間でモリアオガエルの卵塊調査

梅雨に入ったとたんの快晴です。午前中は第3回の水生生物の生態調査で、モリアオガエルの卵塊を観察するために記念碑台近くの通称「2つ池」に向かいました。上の池に近づくと「あった！あった」と歓声が上がりました。みんなで目を凝らして調査すると、池の周りで31個の卵塊を見つけることができました。



目を凝らしてモリアオガエルの卵塊を探しました

### 三橋さんの活動ぶりに敬服

講師の三橋さんは生態学の研究や生物多様性の保全に熱心に取り組んでおられます。当会の第1回の水生生物に関する生態調査からご指導いただいています。

今回の講演の終了後は2つ池で、日暮れまでモリアオガエルを写真撮影し周囲を観察されていました。

### 生態調査は「生物と環境の関係」の研究

三橋さんから生態調査の目的や意義、地道な調査の実態、調査の進め方など多岐にわたってお話をうかがいました。そして、生物調査と生態調査が違うことが分かりました。生態調査とは単に生物のリストを枚挙するのではなく、生物のエサや生活史や生物と環境の

関係を調べ、生存の条件を考えていくものです。

六甲山上のため池に棲む水生昆虫の場合、栄養源は池に堆積する落ち葉だ、というお話から自然界の食物連鎖について関心を深めました。

生態調査は、私たちの生活環境の保全や開発事業のあり方とも深く関係しています。人と自然の共生を考える上で、欠かせない視点になるのではないのでしょうか。

### 市民が理解できる生態調査を進めたい

六甲山には、私たちが環境問題に関わる入り口がいたるところに広がっています。2つ池の生態調査はもとより、ササ刈りやツル植物の手入れ、ちょっとした調査もその第一歩となります。今回のお話で生態調査を進めることを勇気づけられました。多くの人に生態系の様子を理解してもらうためにも、一般の市民や子どもたちの参加を求めています。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

### 参加の感想 高橋 貞美 さん

セミナーを受講し、水生生物の生態調査と一口にいっても講師の三橋先生の長年の苦勞の積み重ね・データに基づいたお話には感心しました。先生にとってはほんの入り口に過ぎないかもしれませんが、その内容の程度の高さを実感しました。ありきたりの（おぎなりの）セミナーではなく、本当に有意義なセミナーでした。できる限り参加しこれまで知らなかった六甲山への認識を新たに、その魅力を再発見したいと思います。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会  
協力：兵庫県立人と自然の博物館  
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

### 【助成金をいただいている機関】

コベルコ環境保全基金、セブン-イレブンみどりの基金  
ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金